

「百」「〇」かではない、自分色の花を咲かせて！

「すごい。いつも、あの子、速いよね。」「いつも、大きな声を出しているよね。」「と、子供達のよい面を見て、私達は評価をします。しかし、その子なりの「がんばり」も評価したいですね。

今週末の学習発表会に向けて練習をしている子供達。今月末のマラソン大会に向けて練習に取り組んでいる子供達。学習発表会での子供達の声の大きさは、自分なりに精一杯の声を出している子もいれば、普段遊んでいる時の声に比べ少し小さいなあという声もあります。マラソンを走っている姿でもそうです。去年までの記録からすると、もっとよい記録が出せるのではないかという走りをしている子がいれば、「ここ何年かの様子と比べると、とても記録を伸ばしている子もいます。ここで見えている子供の姿は、その子の今の姿であることは間違いありません。しかし、ここで、気を付けたいのは、みんな、いわゆる「百点の姿」がよいのではなく、本当に、その子が、がんばった姿なのかを見ることこそが大切だということです。」「十から三十になった姿」もよし。」「三十から七十になった姿」もよいのです。逆に、「百から七十になった姿」はどうでしょう。先と同じ七十の姿でも大きな違いがあります。」「百」を目指しているが、「百でなかったら〇」ではないのです。子供達は、自分の力を自分なりに伸ばし、必死で努力をして、「自分色の花を咲かせよう」としています。私達大人は、普段の子供達の姿をよく見るとともに、努力の姿も見なくてはけません。その時だけの子供の姿で評価をしてしまうことは非常に危険ですね。

今回は、学習発表会やマラソンのことを記しましたが、それ以外の活動でも、子供達は、「自分なりのがんばり」を見せていると思います。ぜひ、その「がんばり」「伸び」をよく見ていただき、応援していただきたいと思います。